

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 4 部門第 1 区分
【発行日】令和 5 年 8 月 21 日(2023.8.21)

【公開番号】特開 2023-24264(P2023-24264A)
【公開日】令和 5 年 2 月 16 日(2023.2.16)
【年通号数】公開公報(特許)2023-031
【出願番号】特願 2022-62886(P2022-62886)
【国際特許分類】

E 0 4 B 1/70(2006.01)

10

E 0 4 B 1/76(2006.01)

F 2 4 S 10/40(2018.01)

【F I】

E 0 4 B 1/70 B

E 0 4 B 1/76 1 0 0 A

E 0 4 B 1/76 2 0 0 A

E 0 4 B 1/76 2 0 0 E

E 0 4 B 1/76 3 0 0

F 2 4 S 10/40

20

【手続補正書】

【提出日】令和 5 年 8 月 10 日(2023.8.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 7】

第一、第二太陽熱温水装置 1 0 4、1 0 5 は、太陽熱により水を加熱する集熱部 1 1 1 と、加熱する水を貯留する貯留部 1 1 2 とを備える。本実施例の第一、第二太陽熱温水装置 1 0 4、1 0 5 は、熱媒が太陽熱により加熱されることで、前記貯留部 1 1 2 の水が加熱される。こうした構成によれば、比較的高い水温の水を効率的に得ることができる。

30

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 0】

加えて、本実施例では、第一太陽熱温水装置 1 0 4 と第二太陽熱温水装置 1 0 5 とを切り替えて流水管 2 に温水を循環させる。ここで、第一太陽熱温水装置 1 0 4 は、屋根上に配設されていることから、敷地内の庭に配設された第二太陽熱温水装置 1 0 5 に比して、太陽熱を集熱し易く水の加熱効率が良い。そのため、外気温が上昇し難い朝から昼にかけての時間(8 時～13 時)で、第一太陽熱温水装置 1 0 4 から流水管 2 に温水を循環させる。そして、外気温が上昇し易くなる昼から夕方にかけての時間(13 時～18 時)で、第二太陽熱温水装置 1 0 5 から流水管 2 に温水を循環させる。この第二太陽熱温水装置 1 0 5 では、朝から昼にかけての時間(8 時～13 時)で温めた温水を、昼から夕方の時間(13 時～18 時)で、集熱部 1 1 1 により温めながら流水管 2 に循環させるため、第一太陽熱温水装置 1 0 4 に比して太陽熱の集熱効率が低くとも、床下空域 1 1 の空気を十分に温めることができる。また、第一太陽熱温水装置 1 0 4 では、貯留部 1 1 2 の水が昼以降で温められることから、夜間における水温低下を抑制できる。そのため、朝から昼にか

40

50

けての時間で、集熱部 1 1 1 により温めながら流水管 2 に循環させることによって、床下空域 1 1 の空気を十分に温めることができる。このように第一太陽熱温水装置 1 0 4 と第二太陽熱温水装置 1 0 5 とを切り替えることにより、床下空域 1 1 の空気を効率良く温めることができる。

10

20

30

40

50